

平成28年度第4回協働支援会議

平成28年5月27日（金）午後1時00分

新宿NPO協働推進センター 501会議室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、渡邊委員、衣川委員、竹井委員、伊藤委員

事務局：地域コミュニティ課長、小宮山協働推進主査、勝山主任、松永主事

久塚座長 では、定足数を満たしていますので始めます。きょう二つの団体ということになりますので、事務局説明をお願いします。

事務局 では、本日の会議の流れについてご説明させていただきます。資料1のほうをごらんください。

こちらが、本日の公開プレゼンテーションのタイムスケジュール表になっております。この場で事前に質問事項等の調整をさせていただいた後、1時半からプレゼンテーションのほうが始まります。開会に当たりまして、地域コミュニティ課長のほうから開会のあいさつをいただいた後に、座長のほうからごあいさつをお願いしたいと思っております。その後、事務局のほうから委員の皆様をほうをご紹介させていただいた後、13時50分からプレゼンテーションのほうを開始するような流れとなっております。

また、団体さんのプレゼン時間は8分、委員さんの質問のほうも8分になっておりますので、こちらのほうはタイムキーパーがおりますので、そちらのほうをご確認いただきながらお願いしたいと思っております。

また、本日2団体のプレゼンが終了しましたら、資料のほうの3にあります採点表のほうに各団体の採点をしていただきまして、プレゼンテーション終了後、事務局のほうで回収させていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

集計のほうで大体15分ぐらい時間をいただいた後、こちらの101会議室のほうで助成団体の決定と助成金額の決定というものを決定していただくような流れとなっております。会議自体は大体3時ぐらいには終了する見込みとなっております。

続きまして、資料2のほうのご説明をさせていただきます。こちらは第一次審査の採点表になっておりますので、参考としてつけさせていただいております。

続きまして、資料3のほうは、こちらが先ほどご説明させていただいた本日の採点表に

なっておりますので、採点のほうをお願いしたいと思っております。

続きまして、資料4のほう、メールでもこちら同じものをお送りさせていただきましたが、委員の皆様からいただきました質問事項を事務局のほうで取りまとめさせていただきました。いただいた質問のほう、質問区分と各委員、どなたの委員がご質問があったかということ欄のほうで設けております。例年ですと代表質問方式をとっていたのですが、今回2団体ということで、各委員の方からそれぞれご質問いただくような形となっておりますので、時間が8分間と限られておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、資料5のほうが各団体のプレゼンテーションの資料をあらわしたものとなっております。本日2団体の団体さんですが、最初の団体さんにつきましては、パワーポイントのみの資料となっておりますので、配布資料というものは事前にお預かりしておりません。2番目の団体さんにつきましては、パワーポイントと紙の資料を配布されているということで、こちらの2番目の団体さんにつきましては、配布の資料を添付しております。

続きまして、資料6のほうに移らせていただきます。こちらの資料6のほう、本日の公開プレゼンテーションのパンフレットになっておりまして、こちらは登壇いただくプレゼンテーションの団体さんと来場者にも同じものをお配りさせていただいております。こちらのプレゼンテーションの資料、パンフレットの中身なのですけれども、各団体の申請書とそれにかかる添付資料が中に入っておりますので、こちらの申請書にかかる内容に対して質問をされる場合は、こちらのページ番号等をわかりやすくお伝えしていただければと思います。

また、委員の皆様にはお配りしている審査資料一式の中には、実績報告書ですとか団体さんの活動の報告書なども含まれておりますが、こちらのパンフレットにはありませんので、もし実績をご質問される場合は、団体さんにわかるようにお伝えしていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後に、本日の採点なのですけれども、一次審査はあくまでも一次の審査としまして、今回の二次審査は総合的な審査となっておりますので、仮に一次でAの評価をつけた項目が、総合的にCになるとかDになるとかということもあり得るかと思っておりますので、あくまでも総合的な評価としてご判断いただきますようお願いいたします。

事務局からの説明は以上となります。

久塚座長 今、勝山さんの発言にあったのですけれども、この黄色い冊子、皆さんは持っていらっしゃるけれども、団体によってはきょうの団体がどうかはわかりません。持ってきていない場合があります。そうすると、質問に出していただいたここにはこれとあるのですがという質問が全然通じないことがあるのでうまく質問してあげてください、そういう場合に、持ってきていますかとかから始まって。

それから、皆さん方からたくさん質問をいただいているのですけれども、8分ということなので、私がどなたからと言うわけにはいきませんが、絶対私というのがありますか。伊藤さん、幾つぐらいする？

伊藤委員 各団体一つずつ。皆さんの質問票を見ると結構まとまって、そんなにバラバラではないのだ。だから、それも踏まえて。

久塚座長 限られた時間ですので、端的に言うところということに時間節約でそれぞれお願いいたします。よろしいですか。はい。では、残り時間が短くなったら質問もポンとわかるような形で、皆さん方がしゃべって、答えるときにあと10秒しか残っていないとちょっと気の毒なのでよろしくをお願いします。

では、移動しましょう。

#### (プレゼンテーション開始)

事務局 それでは、時間になりましたのでNPO活動資金助成公開プレゼンテーションを開催させていただきます。はじめに新宿区地域コミュニティ課長の木内よりご挨拶申し上げます。

地域コミュニティ課長 会議の委員の皆様には本日の審査にご参画を、ご協力をいただきましてありがとうございます。

このNPO活動資金助成は区、あと区民や事業者の方からの寄附金等を積み立てて、その基金を原資としてNPO活動に助成させていただくという仕組みになっております。区としましてはこの助成を通じて、区内でより多くのNPOが自立性と実行力を持って新宿のまちの地域課題の解決に寄与していただければという思いでつくられている制度でございます。

本日プレゼンテーションしていただく各団体におかれましては、ぜひしっかりとふだんの思い、活動をプレゼンテーションしていただきまして、また審査をいただく委員の皆様

には、この基金制度の趣旨に即した審査をしていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 続きまして、平成28年度新宿区協働推進基金・NPO活動資金助成の公開プレゼンテーションの開会に当たりまして、新宿区協働支援会議座長であります久塚委員よりごあいさつ申し上げます。久塚委員、よろしくお願いいたします。

久塚座長 こんにちは。今、課長さんのほうからあいさつがありましたけれども、重複することがないように私のほうから一言ごあいさつさせていただきます。

この活動助成資金ですけれども、非常に長い間やっております。13年目になるのですが、多少雰囲気に変化しつつあるというか、年によっては非常にたくさんのNPOから申請があった年もありますし、そうでない年もございますので、その年によって少しでこぼこがあるのかなという感想を持っています。

ただ、先ほどごあいさつが課長さんのほうからありましたように寄附、それから新宿区によるもの、合わせてそれをファンドにしておりますので、毎年約300万程度を予算として組んで実施しております。今年度はそれに当たって300万で実施しております。私どもここに委員の先生方それぞれおられますけれども、この協働推進、協働を進めていくこの委員会は、この助成のほかにもう一つ大きな仕組みを持っていて、これは区民の方たちが自由な提案、あるいは区が課題を提案するような形で仕組みを提案していただいて、それに基づいて3年間少し大きな金額になります。そういうことで提案制度というものも持っております。これもまた動き始める。ちょっと時間がずれていますけれども、もう時期がずれていますが動き始めて、見直しをしてちょうど3年目の事業の評価に入っていくような状態が現在続いているという次第であります。

きょう委員の先生方から皆さん方のプレゼンテーションをいただいた後に質問がありますけれども、結構厳しい質問が出るかもしれません。どうぞ気分を壊さないで最後まで頑張ってお答えいただければというふうに思っております。

非常に簡単なあいさつですけれども、本日そのプレゼンテーションがこの趣旨に合うような形で、そして区民の多くの方たちにNPOの思いが伝わればというふうに思っております。

簡単ではございますけれども、初めに座長のほうからのあいさつということにさせていただきました。どうもありがとうございました。

事務局 久塚座長、ありがとうございました。それでは、引き続きましてこのNPO活

動資金助成の審査を行っております新宿区協働支援会議委員のご紹介をさせていただきたいと思ひます。

初めに、早稲田大学社会科学総合学術院教授、久塚純一委員です。

久塚座長 よろしくお願ひします。

事務局 なお、久塚委員は当支援会議の座長を務めていただひてお願ひします。

続きまして、ユニバーサル志縁社会創造センター理事、宇都木法男委員です。

宇都木委員 宇都木です。

事務局 続きまして、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会、代表理事、関口宏聡委員です。

関口委員 関口です。

事務局 公募区民委員であります渡邊政子委員。

渡邊委員 渡邊です。よろしくお願ひします。

事務局 同じく公募区民委員であります衣川信子委員。

衣川委員 衣川です。よろしくお願ひします。

事務局 同じく公募区民委員であります竹井陽一委員。

竹井委員 竹井です。よろしくお願ひします。

事務局 元富士ゼロックス東京株式会社CSR部社会貢献推進グループ、伊藤清和委員。

伊藤委員 伊藤でございます。よろしくお願ひいたします。

事務局 最後に、新宿区社会福祉協議会事務局次長、高橋麻子委員ですが、なお高橋委員につきましては本日欠席となっております、本日の審査は7人の委員で務めさせていただきますと思ひてお願ひいたしますのでよろしくお願ひいたします。

なお、申しおくれましたが、本日の進行を務めさせていただきます新宿区地域コミュニティ課の勝山と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、プレゼンテーションの実施要領について早速ご説明をさせていただきますと思ひます。

本日のプレゼンテーションの配布資料としまして、こちらの青い冊子のほうをお配りさせていただきます。そちらを1ページおめぐりいただきますと、平成28年度NPO活動資金助成プレゼンテーション説明資料という資料がありますので、そちらの内容についてご説明させていただきます。

本日は2団体のプレゼンテーションを行ひまして、午後2時24分を終了予定としてお

ります。

このプレゼンテーションは公開いたします。

プレゼンテーションの1団体の発表時間は8分以内、こちらは時間厳守でお願いいたします。残りの時間表示を事務局のほうから、あと3分とあと1分という表示をさせていただきますので、こちらをプレゼンテーションの最中にご確認いただければと思います。時間が来ましたらブザーのほうを鳴らしますので、ブザーが鳴りましたら速やかにプレゼンテーションのほうを終了していただきますようお願いいたします。

その後、委員のほうから8分間質問の時間がございます。こちら残り時間の表示をさせていただきますので、質問のご回答につきましては、できるだけ簡潔に的確にお答えいただきますようお願いいたします。

また、プレゼンテーションの場所は、こちらの正面のテーブルのほうでお願いいたします。プレゼンテーションの実施者は3名以内とさせていただきます。パワーポイント等の資料を用いたプレゼンテーションを行わせていただきます。

ご自分の団体のプレゼンテーションが終わりましたら、その後の退室は自由となっておりますが、できる限りほかの団体さんのプレゼンテーションもご確認いただければと思います。

なお、審査資料のほうは助成金の交付申請書のほか、添付資料としまして各団体の登録票や前年度事業実績報告書などの年度報告の資料も含まれておりますので、こちらのほうもご質問にあるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、過去に同一の事業について助成申請された団体につきましては、事業実績報告書というものが審査資料に含まれておりますので、あらかじめご確認いただきますようお願いいたします。

本日のプレゼンテーションの結果につきましては、6月3日金曜日に発送する予定となっております。助成が決定しました団体さんにおかれましては、6月10日までに助成金の請求書というものをこちらの地域コミュニティ課のほうにご提出いただきますようお願いいたします。

また、事業を実施しまして終了した際は、事業実績報告書のほうのご提出が必要となりますのでよろしくお願いいたします。報告書の提出がない場合は助成金を返還していただく場合があります。

それから、本日の配布資料の中にアンケートというものが含まれているかと思っておりますの

で、こちらにつきましてもぜひ今後の参考とさせていただきたいと思いますので、ぜひご記入いただきまして、お帰りの際にそちらにアンケートの回収箱というものがありますので、そちらのほうにお入れいただければと思います。

それでは、事務局からの説明は以上となりますがよろしいですか。

久塚座長 まず、ブザーがどれぐらいの音かをやってみましょう。聞こえる？

これが、この大きさが限度ですので、これで終わりですよということです。それから、時間表示、いつも事務局のほうでこうやって出して発表、プレゼンテーションに一生懸命でなかなかお気づきにならないので、お話になっている方の横にもしその団体の方がおられたら合図をしてこう見るように、こちらが気を遣うことではないのですが、いつも気にかかりますのでどうぞ時間内におさまるようによろしく願いいたします。こういう出し方をしますので、できるだけこう出しますのでよろしく願いします。

では、発表団体は来ていますね。

少し時間が早いのですけれども、団体の方、よろしいですか、一番目、二番目。

では、始めましょうか。では、ゆっくりで結構ですので準備に入ってください。

パソコンの操作がわかりにくいときはいつでも事務局に聞いてください。

事務局 それでは、ちょっとお時間早いですけれども、プレゼンテーションを開始させていただきます。

1番目の団体さんのご紹介をさせていただきます。団体名が市民の芸術活動推進委員会、事業名が「ブルーノ・ムナーリを親子で楽しむ活動事業」です。それでは、よろしく願いいたします。

市民の芸術活動推進委員会 どうぞよろしく願いします。CCAAと言いますけれども、ことしの8月に丸10年目になります。旧四谷第一小学校で活動を始めて、この8月で丸10年ということです。

今大きな懸案事項はNPO、私らのNPOを支えている中心メンバーがだいぶ高齢化しているということで早く若い人を、この後継者を見つけることが一番今課題かなというふうに思っていますが、中身は非常に親子の活動だとか、それから障がい者の活動だとかさまざまなことをやっていますので人手が足りないぐらいのことです。去年のブルーノ・ムナーリの活動もいろいろご支援いただきましてありがとうございました。ことしもまた継続してやろうというふうに思っています。

ちょっと今ユニクロで買ってきたのですけれども、実はブルーノ・ムナーリのこういう

デザインしたシャツが今売っているのです。去年1年間ブルーノ・ムナーリの活動をやってみて、ちょっと意外だったのは、意外とブルーノ・ムナーリのことを知られていないということがわかりました。我々はNPOですが、こどもの城からブルーノ・ムナーリの物品を全部買い取って、それでそれを原資にして活動を開始しているのですが、なかなかムナーリことは知られていない、新宿区民の方にも、全都的にもなかなか知られていないことがわかりました。ぜひこの活動を通してムナーリさんのよさをこれからもどんどんアピールしていきたいなというふうに思っています。

それでは、きょう去年やってきたことを報告するような形にしていきたいなというふうに思います。「ブルーノ・ムナーリを親子で楽しむ活動」です。

活動するに当たってブルーノ・ムナーリ展を去年は3回企画展を行いました。4月の1カ月間、絵本と遊具とグラフィック展です。それから、7月から9月、2カ月間ですけれども、アート・マルティブルプロダクト展、それから2月からつい最近までやっていたけれども、約3カ月にわたって絵本と遊具展ということをやっていました。

ことしもこのような企画展を季刊ということで継続して取り組んでいきたいなというふうに思っています。我々の活動は二つありまして、一つは親子で楽しむ活動、それから市民を対象とした活動ですが、まず最初に親子で楽しむ造詣・読書活動をことしも展開するということです。

造詣・読書活動の趣旨ですけれども、親子のつながりを大切にして、互いの感性を通わせ、美術にさまざまな要素、線や色彩や形や手触りを遊び感覚で体験しながら、知らぬ間に美術への感受性を養うということを目的にしています。

まず、テクスチャーを味わうという、コラージュをつくるということで、例えば壁などのでこぼこを親子で実際に薄い紙を通してこすり出しをして、それをもとにはさみで切ってコラージュをするような活動をやりました。親御さんの感想ですけれども、子供たちが楽しめると同時に親もまじめになってしまうほど親子が一緒になって楽しめるワークショップでしたというのがこのお母さんの感想でした。

次は、宇宙地をつくるということで、風船を膨らませてそこに和紙を張りつけ、さらに色画用紙をもんだ、やわらかくしたものを張っていきます。最後に一緒に乾かしてから風船をつぶすと中の空気が抜けて形だけ残るといったものです。天井からぶら下げて飾るようなことをしました。

久しぶりに子供と工作ができて楽しかったです。子供の創作意欲を刺激してとても充実

した時間でした。ここの親子はお父さんとお母さん両方参加していただいて、女の子が、2人の子供たちがずっと継続して取り組んでくれたすてきな家族でした。

次は、マペットをつくる。これも色画用紙が中心ですけれども、色画用紙というのは割と固いものなのです。それを手で十分にもむとすごくやわらかくなるのです、紙が。すごく不思議なぐらいやわらかくなります。しっかり丈夫、なかなか破れないのですが、それを袋状にして、中に手を入れて指人形にして遊ぶ活動です。これはこのお母さんとお子さん2人が参加してくれました。お父さんも一緒に参加してくれました。このときの活動は非常に参加者が多かったのですが、残念ながら年間を通して継続して取り組んでくれる親子が割と少なく、後半はちょっと若干減ってきたのが残念でした。

クリスマスハットをつくる、帽子をつくる。クリスマスの時期にやった活動です。

それから、スライドのマットの中に実物の羽とか何かちっちゃなものを入れて、それを拡大で広げていくような活動です。

それから、これは無作為に切った形を何かに見立てる活動です。

それから、これはコラージュでいろいろなさまざまな素材の紙とか、それからいろんな皮とかさまざまな素材を感触を楽しみながらコラージュにして楽しむ活動です。これも親子が3人で参加してくれました。

それから、これが最後ですが、2月ごろになって図工室ではちょっと狭かったので四谷ひろばの広い部屋をお借りしてやった活動です。ちょっと参加者が少なかったので物足りなかったのですが、大きな木をみんなでつくって、最後にはこの木を壁に張りつけるようなそういう活動をしました。

それから、今度は市民を対象としたムナーリの講習会ということをごともしやろうというふうに思っています。ムナーリ講習会の趣旨ですけれども、ムナーリの発想を手がかりにアートをさまざまな側面から考え、手を動かし表現しアートが最も身近なものであることを理解するというをしようと思えます。

去年は4回行いまして、絵本、読めない絵本をつくろうということで、まず『麒麟の中のサーカス』などの本を読み解いて、そして参加者がムナーリが取り組んだ読めないような絵本を実作しようということをやりました。これが参加者が作成した読めない絵本です。なかなかすてきなデザイン的な本ができ上がったなというふうに思っています。

それで、ことしですけれども、親子に関しては去年の活動を継続して行う。それ以外に若干回数をふやしましたので新しいものも今取り組もうというふうに考えています。それ

から、大人のほうですが、これも回数をふやしますので、食卓の手紙とか読めない文字、それからコラージュの意味、それから運動を考える、それから読めない絵本を、これは継続してやろうと思っています。それから、さまざまな形ということでいろいろな素材、活動を通して私はもう少し市民の活動を充実させようかなというふうに思っているところで

す。

以上でございます。よろしく申し上げます。

久塚座長 はい、時間ギリギリ、ちょうどということでした。では、委員のほうから質問をさせていただきますので、よろしく申し上げます。では、質問時間に入ります。では、伊藤さん。マイクがありますので使ってください。

伊藤委員 二、三質問させていただきます。今、去年の実績を踏まえたプレゼンがございましたけれども、それとことしの計画についてをちょっとお話しさせてください。

前回親子の参加者ですとか、それから参加児童さん、それから市民の参加者さんの方を区別されていますが、ことしも同じような形で計画をつくられているのですが、ほぼ計画は去年と同じ数値的には。去年も大体五、六十%ですか、来られている方が。ことしも人数、例えば市民参加者ですと去年は44回か、ことしは7回で70になっています。そのふえている計画を達成するためのものを去年の課題、問題を分析してことしに多分反映されていると思うのですが、その点をちょっとお聞きしたいのと、それから今親子さん、それから市民の方の参加がありますが、地区的に四谷のほうですから偏りがあるのかどうか、その辺をちょっとお聞かせください。

市民の芸術活動推進委員会 市民のほうの活動については私が担当者なのですが、実は広報的に少しくまらなかつたことがありまして、ことしは広報を少し力を入れれば多分その私の今までの実績から考えると、フルに参加者を募ることができると予定しています。

それはムナーリについてずっと広くやってきた実績もありますので、去年本当にちょっと初めてのこともあったので、広報活動としては少し手薄になってしまったというのが私の実感です。

偏りということですが、新宿区全体、ほとんど電車、それからバスで来られる方もいらっしゃいましたので、四谷地区ということではございませんでした。

伊藤委員 あと1点です。ことしの計画の中には去年来られた方、リピーターといえますか、その人たちの来るといふ予定数もその10の中には組まれているのでしょうか。先

ほどもありましたように参加された方の感想とございますか、それは結構有意義だった、親子で楽しめたということが多いので、やっぱり参加者が確保できないとそれが広がっていかないと言えますのでそこら辺をちょっとお聞かせください。

市民の芸術活動推進委員会 多分ですけれども、とても熱心な親御さんはことしも参加したいというアンケートに書いてはいらっしゃいましたので、多分ことしもまた継続して参加される方も多分いるのだろうというふうに思います。その場合に大事なものは、同じことをやるとつまらないなということになりますから、新しい課題を提供しながらそれを取り組んでいただけるというふうに思います。

久塚座長 ほかの委員の方、いかがでしょうか。

はい、渡邊さん。

渡邊委員 渡邊です。二つほど質問させていただきます。まず、第1点なのですけれども、資料のほうにイベントのときに参加された人数が書かれているのですが、そうではなくてその活動するときのイベントのときのスタッフの方の数は何人くらいになるのか。各イベントでまたばらつきがあるかどうかということをお教えいただきたいのと、あと2点目ですけれども、最初に後継者不足に悩んでいらっしゃることなので、もし今回助成が得られた場合に、この助成金の中から後継者を育てるために使われるものがあるとするばどんなところにあるのかお教えいただきたいと思います。お願いします。

市民の芸術活動推進委員会 後継者に関しては本当にはないです。ことしちょっと四谷、私らが四谷ひろばというところが活動拠点ですので、地域の方からボランティアを何人か募ってぜひ参加してほしいということをお強かに呼びかけていきたいなというふうに思っているのですが、そういうことで少しずつ我々の活動が理解されて広がっていくかなというふうに思います。

実際の場合は講師とそれから補助者と2人体制ですとずっとやっていました。

主たる指導者のほかにスタッフがあるかと。親子の場合はそれなりに時間がある者が、私たちNPOの人間が参加するのです。それはダイナミックで、必要なときは2人いたり1人いたりとするのですが、基本的に講師を務める人間が主に行います。

市民のほうは私が講師で、基本的にはムナーリの考えを伝えたいということなので、比較的セミナーみたいな方法なのです、進行の仕方が。ですから、必要なときはスタッフを募りますけれども、基本的に1人です。

久塚座長 よろしいですか。

渡邊委員 最低限のスタッフで頑張っていらっしゃることがよくわかりました。ありがとうございました。

久塚座長 はい、ほかに、竹井さん、どう？

竹井委員 すみません、竹井です。ちょっと簡単な質問なのですが、さっき報告の中で回数を重ねるごとにちょっと人数が少なくなっていったという話もあったりしたのですけれども、特にその区民たちにいろいろサービスをする中で、今実際に活動する時間というのが働いている人、例えば夕方ぐらいからこういう教室をやっていたりとか、土曜日、日曜日とか、先ほどは何かフェイスブックとかそういうウェブのほうでいろいろ呼びかけるとい話はあったのですが、時間帯という面でいろいろ考慮する点というのは何かあれば教えていただきたいのですが。

市民の芸術活動推進委員会 市民のほうに関しては去年の夏、日曜日午前中にやったのです。でも、ちょっと参加者が少なかったので、ことしは試みに平日の夕方から、6時半ぐらいからやろうかなというふうに思っています、新しいニーズにこたえようかなと思っています。親子のほうに関しては日曜日継続してやろうと思っています。

竹井委員 わかりました、ありがとうございます。

久塚座長 はい、もうあと何十秒かしかないので、よろしいですか。

関口委員 ちょっといいですか。

久塚座長 もうそれで時間が切れたら答えがもらえないけれどもいいの？

関口委員 はい、質問というか希望なのですけれども、このチラシ、先ほども広報はねいうお話があったのですが、何かこの報告書に入っているチラシが、ちょっと文字ばかり多過ぎて、何かせっかくアートプログラムなのに全然おもしろみが伝わってこないのです。

だから、広報をもうちょっとせっかく今回プレゼンでもいろいろな楽しい写真とかおもしろみが伝わる写真を撮られていると思うので、著作権とかいろいろあるのかもしれないのですけれども、ぜひもっと楽しげなチラシをつくっていただければなという希望です。

市民の芸術活動推進委員会 ありがとうございます。

ちょっといいですか。それは言いっ放しにされるととても嫌だなと思うわけで、つまり。

久塚座長 今のは委員の失敗ですのでどうぞ答えてください、1分で。

市民の芸術活動推進委員会 いいですか。アートの場合はビジュアルでやってもいいのですけれども、やっぱり物事の趣旨を伝えるときには一番いいのは文字情報なのです。文

字情報も必要なのです。そのことで私たちがチラシをつくってまくわけですが、非常に狭い範囲でしか配れていないというのです。実はムナーリに関しては、潜在的に物すごくあって、ごめんなさい、もうやめます。

久塚座長 まだあと30秒残っている。

市民の芸術活動推進委員会 いいですか。それで、2018年から日本全国の大きい美術館4館でムナーリの展覧会があるのです。それになってみんながムナーリを知ることではつまらないので、私たちムナーリのことについて少しずつ少しずつ今やっている段階なのです。

委員に対する的確な返事にはなっていないけれども、意図だけはわかっていたきたいということです。

久塚座長 はい。

関口委員 ありがとうございます。

久塚座長 残り時間1分というところで質問が始まったので、答えの部分は差し上げましたので、どうぞそれでご理解いただければ。

市民の芸術活動推進委員会 もちろんいいです、はい。

久塚座長 では、終わります。

事務局 ありがとうございます。市民の芸術活動推進委員会さんでした。

市民の芸術活動推進委員会 ご清聴ありがとうございます。

事務局 続きまして、2番目の団体さんのほう、ご準備のほうお願いいたします。

それでは、2番目の団体のほうをご紹介します。団体名が粋なまちづくり倶楽部、事業名が『神楽坂検定（中級）（初級）』と『神楽坂をよく知るセミナー』の実施により住民等に街の歴史や文化等、地域への理解と郷土愛を深める事業」です。

それでは、よろしく願いいたします。

久塚座長 では、時計をスタートします。スタートです、はい。

粋なまちづくり倶楽部 粋なまちづくり倶楽部でございます。紹介させていただきます。左端から、皆様から見て右側です、理事長の山下でございます。それから、理事の菊池でございます。私が常務理事で事務局長を務めさせていただいております西谷でございます。よろしく願いいたします。

では、座らせていただいて進めさせていただきます。

昨年度からこの事業を実施をさせていただいておりますこととして2年目、去年は初級

を実施をさせていただきました。ということで、ことしはそれを中級まで広げようということで今回申請をさせていただいたということでございます。

最初、初級をやったときのことを少し振り返らせていただきたいと思います。これは神楽坂のまちのイメージで、こんないろんなことをやっているなというふうに思っていたいただければいいと思います。

まず、まちづくりなのですけれども、ポイントはやっぱり人づくりになるだろうというふうに我々考えていまして、そのためには地域の帰属意識だとか、かかわり意識の醸成が大事です。それを広めていくためには地域への関心とか地域の理解、地域に関する知識・情報の共有が不可欠であるということで考えていました。

神楽坂の現状を見ますと、我々まちづくり活動の成果が実って、10年前に比べて来街者の数が格段に増加をしているとか、一方でまちの変化のスピードが非常に早まっている。マスコミ・ロコミ等々による情報があふれている。地元住民の地元への関心が高まっているというようなことが上げられています。

そんな中で今私たちの課題としてとらえていることなのですが、一つは情報が非常に大きくなっている。それから、誤謬、要は間違ったことを伝えるです。そういったことだとか、それからあとは操作などによって情報が混乱し始めていることだったりとか、それから歴史・文化、歳時記、イベント等々ニーズに合った整理された情報の普及ができていない。要はバラバラに情報が出てきているのではないかなということ。

そして、子供たちを含めた次世代のまちの担い手に適切な地域情報が伝え切れていないということで、うまい情報の普及方法を考えなければいけないですねということが背景にはございます。

例えば情報がまちの中に及ぼすトラブルの例としまして、ここに上げられているような例えば歴史認識が間違っていたりとか、誤った地図の情報だったりとか、まちの成り立ちの間違った情報等々ここに記載をさせていただいたようなことが、情報としてトラブルになる原因だろうということが上げられます。

私たち粋なまちづくり倶楽部が行ってきたことということで、地域資産の再認識とか既存資料の収集整理等々こういったことを行ってきたわけですけれども、これらをもとに情報の精査とか情報本の刊行、そしてまちあるきガイドとマップ作成と、こういったようなことを実践をしてきました。

こんな写真にあるようないろんな活動を行ってきたということです。古典芸能なんかの

普及なんかもやってまいっております。

地域情報を普及をしていくときに基本になることなのですけれども、まずその情報を知ることが地域への愛着だとか親しみ、誇り、関心を強めてくれるということが必要でしょう。それから、その情報がやっぱりある種満足とかステータスにつながる必要があるだろう。三つ目としては、情報に基づく行動がまちの迷惑にならないということが必要ですね。四つ目、もうこれ、かなり大事だと思うのですが楽しく学べる、そして世代を超えて伝承される。これはやっぱり大事なことですということです。五つ目としては、変化する情報にも対応がしやすいということが大事になってまいります。

情報のニーズというのがだんだん求める側が多様化してきまして、ここにあるとおりまちの情報となる、まちの基礎となる情報としていろんなことを求める人がいたり、人物の情報を欲しいと言う人がいたり、地域資源の情報が欲しいとかいろんなことを求める人たちがふえてきているという現状が一方にはございます。

そんな中で情報を普及させていくためのツールとして我々がつくってきた中で例えばガイドマップとかガイドブック、それからウェブも活用したり掲示板を使ったりしているのですが、その中にはやっぱりこのブルーで書かせていただいたような制約が非常にあります。そんな中で新しい手法としてまち検定をしてはどうかということで昨年からは実施を始めたのが神楽坂検定という検定でございます。

昨年度やってきたことなのですけれども、まず神楽坂検定（初級）を開発しました。神楽坂の住民、神楽坂が好きな方々に対して地域への郷土愛を深めることを目的に実施をしたということで、昨年はスタートでしたので初級に限って実施をしました。ことしから中級、そして来年また上級というふうな形で開発をしていこうというふうに考えています。

同時に、セミナーを実施することによってまちを歩き、そして座学をするということで体験型のセミナーを実施をしたということです。具体的には、まず『神楽坂を良く知る教科書』という、こういう38ページ立ての教科書をつくりました。これをここにある五つの分野で整理をしましてセミナーの受講者に配付をしています。

先ほど申し上げた神楽坂をよく知るセミナーですけれども、これに関してはまち歩きと座学を組み合わせたセミナーということで、同じ内容で11月14日と12月5日2回開催をしまして、66名の方を合計出席をいただいております。

イメージとしてこんな感じです。左上のほうでまち歩きをしている。そして、右側のほうで座学で学んでいただいたという、そんな状況でございます。

アンケートの結果なのですけれども、おおむね好評であったというふうに言っていると思います。非常にセミナーそのものはよかったということです。ただ、検定そのものを受験したいと言う方についても、この中でも約3分の2の方が受験をしたいというふうにおっしゃってくださったということです。

検定受検者の方、この後で申し上げますけれども、何人かの方が登録ボランティアの登録を希望されたということもございましたし、まちづくりへの興味を喚起をできたというふうには考えています。また、より深い情報を得たいという声も非常に大きくなってきていまして、セミナーそのものも成功したのであろうというふうに私どもとしては考えているということです。

そして、あと検定なのですが、ここにあるとおり45名の方が受験されまして、41名が合格をされました。50問の試験で実施をしたということでございます。

その成果と課題なのですが、まちづくりボランティアへの参加表明とかまちのありようなど興味・関心を高めたということで、より深いところの情報提供を期待しているという意見が非常に多いということで、次、やはり中級を期待されているなということを実感しております。メディア等の取材等によってもPRの実施もできたということです。

あと改善点は幾つかありますので、またご質問いただければと思います。

中級に向けてなのですが、初級に加えて今回は中級への拡大を図りますということで、ここにあるとおり来年の1月、2月に中級試験、初級試験を実施をするということで組み立てていこうというふうに考えています。

もたらず効果として神楽坂検定の認知拡大が進むということで、ここにあるような内容ですので、これはすみません、お手元にこういう資料をすみません、こういう資料をお配りしていると思いますので、また後ほどごらんいただければと思いますけれども、いろんな意味で効果ももたらせているというふうに考えられるということです。

では、あとは最後に検定の広がりなのですけれども、これから先、幾つかあると思いますので、これをごらんいただければというふうに思います。

すみません、ちょっと長引いてしまいまして、以上でございます。ありがとうございました。

久塚座長 はい、質問をどなたからでも結構です。では、伊藤さん、ちょっとマイクを回します。では、今からスタート。

伊藤委員 では、今のプレゼンを踏まえましてご質問させていただきます。去年のセミ

ナーについてをメインにお話をさせていただきたいと思います。去年11月の29名、12月37名という形でふえていることは評価できるのですが、その1回目を終わったときに、何かこれではまずいなと考えて手を打ってその結果の数字なのかということが一つ、それからセミナーをやった人は全員検定を受けているわけではありません。その間、その逆、例えばセミナーを受けないで検定を受けた人というのはどのぐらいいるのかということと、そのセミナーを受けた人のマスが新宿区の人ないしは神楽坂の地区の人なのかということをお話させていただきたいと思います。

粋なまちづくり倶楽部 まず、セミナーは当初から同じ内容で2回やるということ想定をしておりましたので、1回目、2回目、1回目を受けてだからどうしたということではなくて、1回目と2回目、時間を多少変えましたけれども実施をさせていただいたということです。

たまたま人数の違いに関しては、その日程の関係ということだけだというふうには理解をしています。

検定の受検者に関しましては、セミナーを受けた方というか、検定を受けた方の中の約半分強の方がセミナーを受けていらっしゃいます。

あと新宿区民との差、区民ということになりますと、大体検定を受けた方ではほぼ半分が神楽坂近辺の方で、残り半分のうちのその半分、ですから4分の1の方が新宿区民の方、残り4分の1の方が大体東京近郊の方というイメージでとらえていただければいいのかなと。

あとセミナーに関しましては、大体7割が神楽坂近辺から新宿区の方でした。

久塚座長 よろしいですか。

伊藤委員 はい。あともう1点、先ほど検定、教科書といいますか、つくられていますけれども、この先ほどの話にもありましたように地域の子供たち、次世代を担う地域の子供たちがこういう検定があるということと、それと内容を知っていただきたいということが重要だと思うというプレゼンがありましたけれども、それに関して例えば小・中学校の、今ちょっとやっているかどうかありませんけれども、総合授業と昔ありましたけれども、そういうところののせてもらうような働きかけや何かはされたのか、それともこれからなされる予定なのか、そういうのをお聞かせいただきたいと思います。

粋なまちづくり倶楽部 お答えします。実はその津久戸小学校というのが地元でございます。津久戸小学校は110周年か、そのときに郷土史に関する本をつくってあります。

学校側はそういうふうな動きを別途してしまっていて、今回もこのテキストをつくるときもそれも参考にしているのですが、一度この一般向けのやつをまずはつくりましょうと。そのお子さんたちにどこまでの内容が伝わるのだろうかというのはちょっと検証していきたいということで、1年目は特にそこのお子さんたちの話はしていません。

ただ、学校の方とかPTAの方々には、こんなことを始めますのでということだけはお伝えしてあるという状況です。

久塚座長 よろしいですか。

伊藤委員 いいです。

久塚座長 ほかの委員の方。

宇都木委員 宇都木と言います。皆さんの話を聞いていて、今回の話で皆さんが目指すべき目標、何のためにこの事業をやっているのかということはかなりはっきりさせないと、セミナーに参加した人が何人いたから、検定を受けたから、何人いたから、合格者が何人いたからでは意味がない。

なので、何のためにこの活動を進めようとしているかという基本的な方向と、それで受益者というのは大体だれなのかということをはっきりしないと、助成金をもらう説得力がかなり落ちてしまうというふうに思うので、そこら辺をちょっと説明してもらえますか。

例えば僕が見るのはまち並み保存なのか、それとも地域への来客数を拡大しようとしているのか。これはちょっと定かではないので、これ、説明してください。

粋なまちづくり倶楽部 神楽坂の情報が非常に複雑化しているということをご理解いただけたと思います。それで、その中で例えば神楽坂に対するまず来客側の判断から言うと、神楽坂というのは最近飲食系がどんどんふえているとか、あるいは花柳界について多少認識があるとかということで非常に偏った格好で入られています。その方々に対してマスメディアなんかはまたいろんなことを言っていて、ますますその情報が混乱しているという状況の中で、一つ例えばまちづくりの話をしてしまうと、例えば神楽坂には路地が多い。マスメディアの発想でいくと木造も多いし危ないから路地をなくせという、これは論調です。

ところが、まち側が調査して、我々の活動でも確認済みなのですが、近くの牛込消防署も入れて話をするという中で、ほとんど路地についての問題というのはそこにはないというふうに思っています。

ですから、防災上の問題というのはほぼ解決策が見えてきているということです。です

から、それを伝えないことには相変わらずまちづくりの中で路地をなくせということを消すことができないということですが、例えばそういうことを伝えようとしても、例えばまちづくりのシンポジウムをやってもその情報は伝わっていきません。ほとんどご参加されないからです、一般の方々は。

それを伝えようとする、何らかの楽しい仕組みの中でそれを盛り込んだものを入れていかないと、まちで一生懸命やっているまちづくりの活動の本当のところは伝わらないと我々は思っています。そういう意味で今回非常に文化的なもの、まちづくり系、都市計画とかまちづくり系のもの、それから古い建物のものとかジャンル別にこういうふうを組み立てていまして、その体系の中で全体がわかってくれることを期待しています。そうしまして、ようやくその神楽坂を支える人たちが正しい情報を持って我々の味方になってくれるだろう、地域の味方になってくれるだろうと思っています。

来客をすごくふやすことというのは、もちろん文化的なものがあるよということでふえておりますし、一方でまちづくりのハードないろんな問題についてのことについても理解は広まってきていると思います。

ですから、いろんな面から言ってこの検定というのは効果が出てきているというのは、やってみて非常に実感しているところです。

久塚座長 ほぼ時間なのだけれども、受益者はどうなるかということなのですが。

粋なまちづくり倶楽部 受益者は、一つは来客される方々で神楽坂について知りたい方というのはたくさんおられます。その方に対しては情報としては提供されているということで、広い意味の神楽坂ファンといいますか、そういった方々にはある意味で広がっていると。

それで、地元側は、先ほど申し上げた地元がいろいろなまちづくりの活動をしておりますので、その情報をとにかく伝えて、正しい情報の中で我々の味方になってくださいとこの活動をやっております。

そういう意味ではこの情報が伝わるということはまちの活動、地域の方々の活動を支えることになっていると思いますので、受益者は地域であり、その神楽坂を訪れるいろんな方々だと思っています。商業をされている方にとっても役立つ情報というのは、この検定というやり方であれば出していけると思っていますので、中級以降になると借りかえの問題とか申請の問題とか少し営業的なことで発想されている方々の情報もようやく入ってくると思います。初級ではまずは基礎編ということで、そこは手を出さなかったというこ

とです。

久塚座長 ちょうど前のグループ延長時間と一緒に渡さないと、そちらのグループから不満が出るといけないので1分だけつけ足しましたので、これでイーブンになったからよかったです。委員の中には発言されなかった方もおられますが、十分伝わったかどうかは別としてみんなから質問は出ていますので、それを合わせた形で質問というふうにしていますのでご理解ください。

では、事務局のほうから終わりのあれをお願いします。

事務局 ありがとうございます。粋なまちづくり倶楽部さんでした。

久塚座長 はい、お疲れさまでした。

事務局 以上で本日2団体のすべてのプレゼンテーションは終了しました。では、こちらをもちまして本日のプレゼンテーションのほうを終了させていただきたいと思えます。ご参加いただきました方々、ありがとうございます。

久塚座長 どうもお疲れさまでした。

事務局 ぜひアンケートのほうをご記入いただきましてご提出いただければと思います。よろしく願いいたします。

(再開)

久塚座長 では再開します。事務局の採点に立ち合い、読み合わせにて立ち合わせていただきました。手元に資料がありますので、説明をお願いします。

事務局 では、お配りさせていただきました資料とともにご説明させていただきます。

採点の結果につきましては、申請番号4番の団体が176点、こちら300点満点中の得点となっております。申請番号2番の団体さんが175点、合わせて得点率のほうが右のほうに記載してありまして、それぞれ58.7%、58.3%となっております。

二次審査のほうにつきましては、6割以上というふうな基準となっておりますのでこのような点数となっております。

久塚座長 はい、今、事務局から報告をいただいたとおりです。ということで、二つの団体に来ていただいたのですけれども、通過団体なしと、これ、採用なしという結論でよろしいですね。

各委員 はい。

久塚座長 はい、この二次については、その意味で採点のところ、一番右側のほうの表で前年度との関係、マイナス点をつけるところがありまして、Aとつけばマイナスゼロ点、Bとつけばマイナス1点という形になっていきますけれども、マイナス2点ぐらいになると、5点評価のところの相当押し上げがないと6割というのに到達しないという採点基準でやっております。結果的にはこのような形で180点がちょうど6割なのですが、4点足りない、5点足りないという状態になってしまいました。

今からこれ移動させるわけにはいきませんので、きょうのプレゼンの結果につきましてはこういう結果であるということで、皆さん方からの結果はもうこれで結論ということにしますが、何かコメントはございますか、ご発言は。

宇都木委員 残念。残念ですが、結果は厳正に受けとめるしかないでしょう。

久塚座長 まあ、もちろんそれはそうですけれども。よろしいですか。

では、事務局のほうからその他ということで、次回の期日を含めて連絡があれば。

事務局 次回の会議につきましては、6月24日の金曜日の第1回協働事業評価会になります。こちら1時半からヒアリングということでお願いしたいと思います。この評価会の前に二つ事業が入ってしまして、一つが評価会の事業視察、6月10日の商店街のほうの事業視察と6月17日のワーク・ライフ・バランスのほうの事業視察、そちらが間に入っていますので、そちら両方とも通知をいたしますのでごらんになっておいてください。よろしく申し上げます。

久塚座長 では、きょうの協働支援会議、これで終わります。お疲れさまでした。

事務局 ありがとうございます。

— 了 —